

目標達成計画

作成日: 平成 27年 3月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	入居期間が長期になり、入居当時よりも身体面で機能低下があったり、認知症の進行などにより、外出の機会が少なくなっている。離設は無くなったが、それは単に「かいな」での生活を快適と感じているのではなく、意思を表出できなくなっているという問題点であるということを、職員全体が理解して対応していかなければならない。	共同生活をする者同士が、共通の話題や時間を共有することで、かいなでの生活を「楽しい」と感じることができる。	併設事業所の協力も得ながら、外出時の緊急事態や不測の事態にも対応できるように、職員体制を充実させ、なるべく全員で出かけられる機会を設ける。そうすることで、施設内だけで過ごすのではなく、外部との交流を図ったり、気分転換が図れるようにする。	6ヶ月
2	21	全員ではないが、人と交わることが苦手な方、他者の行動が気になる方、自分の思いを他者に押しつけようとする方など、それぞれの個性がぶつかり合って、頻繁にトラブルを起こしている。また、そういった状況を見て、萎縮して不安を訴えるようになるなど、狭い空間での共同生活が苦痛に感じている入居者がいる。	入居者同士のトラブルを無くし、不安なく生活できる場所がある。	暴力行為が出やすい利用者に対しては、その方が孤立しないように注意し、その場から離れられる対応をしたり、間に入るなどしてトラブルを回避できるようにする。そういった状態になったときに、他者の言動にも注意し、行き過ぎた発言などがあるときには、職員が他の話題を振って気持ちを変えるなどの工夫を行う。また、職員が認知症の理解を深められるよう、認知症研修に積極的に参加し、自身の知識や理解を深めることで、よりよい対応ができるようになる。	6ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。